

小渋川から赤石岳

2012年10月6日(土)～8日(月)

メンバー：和利、酒屋、大山、池田T(記)

アプローチに小渋川を使って赤石岳に登るこの登山道は今から120年前にウェストンが歩いたクラシックルートである。以前から気にかけていたこのルートに今回2泊3日で挑戦した。小渋川の渡渉は20回程度あったが、水深は最大で膝程度だったので特に苦労は無かった。湯折と大聖寺平の区間で出会ったのは3パーティー5名と、利用者が少ないルートであるが整備は行き届いており、危険な所や進路に迷うような所は無かった。

<タイム>

10/6(土) 曇り時々晴れ 夜中は雨

湯折7:25－小渋川入渓8:20－広河原小屋10:15 (2h50m)

10/7(日) 小雨のち曇り

広河原小屋5:30－大聖寺平9:15～9:30－赤石岳11:15～11:45－広河原小屋15:45 (10h15m)

10/8(月) 晴れ

広河原小屋6:20－湯折8:50 (2h30m)



湯折のゲート前には車を7～8台止められるスペースがある。
ゲート手前の数kmは未舗装だが2駆の普通車でも問題ない。



七釜橋から見下ろした小渋川。
水量は多く無さそう。



最初の渡渉点。

我々の後にゲートを出発した3人パーティーも追いついてきて渡渉の準備をしている。
自分は沢登り用の靴とネオプレンの靴下を使用し、水の冷たさはほとんど感じなかった。



渡渉点の参考になる赤ペンキが時々あるが、水深が浅そうな所を自分で探せば良い。



小渋川ルートも終盤になるとほとんど河原歩きである。
二人が眺めているのは"荒川崩壊地"



福川を横切ってから少し歩くと正面右手側にこの看板がかかっている。



河原から上がって5分ほど歩くと広河原小屋がある。

足並みが揃ったパーティーだったこともあって湯折から3時間弱で着いてしまった。小屋の壁の右側に水場の方向を示す看板があるが、水場とは沢（福川）のことである。時間的にはこのまま尾根を上げて荒川小屋に行くことも可能ではあるが、当初の予定通りにここに泊まることに。河原でのんびり過ごした。



小屋は南アルプスの無人小屋に良くある、土間を挟んだ両側に床がある造り。今年の夏に外のトタン壁と床板を張りかえて、9月1日にリフレッシュオープンしたようだ。



2日目は長丁場なのでまだ暗い5時半に出発。尾根に取り付くまでの平坦地で赤テープが見えにくくて行き過ぎたりしたが、尾根に取り付いてしまえば登山道は明瞭。大聖寺平までの距離を示す新しい標識も良く目立つ。



大聖寺平は霧に包まれて視界不良。それでも登山者はちらほらいる。



赤石岳の山頂にて。残念ながら展望は得られなかった。
周囲には新雪が少しあった。昨夜の雨がここでは雪だったと見られる。



往路を引き返す。中央右のピークは小赤石岳。
赤く見えるのはウラシマツツジ。秋の気配が濃厚である。



小赤石岳へ突き上げる尾根（ラクダの背）は紅葉まっさかり。



標高2550m付近。ダケカンバの黄葉が美しい。



3日目は小屋から帰るのみ。後に見えるのは「高山ノ滝」。
今回我々は2泊3日としたが、初日に荒川小屋か赤石岳避難小屋まで頑張れば
1泊2日も可能である。ただし大聖寺平までの登りはかなり急なので、
泊まり装備を背負って登るのはそれなりの体力が必要である。

以上